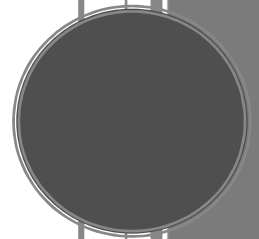


# Q & A





## 「学校、幼稚園における食物アレルギー対応の手引き」Q&A

以下の Q&A は、一般的なことを記載していますので、正確な判断は、主治医の意見を優先してください。

### 【アレルギー症状・対応】

Q1. 家で食べさせたことのない食品がある場合は、医療機関で先に採血をしてもらったほうがよいですか？

A. アレルギーを積極的に疑うようなアナフィラキシーの既往やアトピー性皮膚炎がないのであれば、まずは家で食べてもらうことで良いと思います。

Q2. それまで問題なく食べていたのに、血液を用いたアレルギー検査を行ったら陽性にてた食品がたくさんありました。除去したほうが良いですか？

A. 問題なく食べていたものであれば、食べ続けて構いません。血液検査の結果をもって除去することは推奨しません。

Q3. 血液検査をすれば、どの程度の除去食が必要か、どのような症状がでるのかわかるのですか？

A. 血液検査は参考になりますが、それだけで食べられる量や、食べたときの症状がわかるものではありません。

Q4. 血液検査で陽性でも、食べられる食品があるのはなぜですか？

A. 血液検査で食物に対する抗体が陽性でも、それを抑制する免疫（は、検査することはできません）が働いている場合や、消化吸収能によって、実際に食べてもアレルギーが起きないことはよくあることです。血液検査よりも、実際に食べてどんな症状が起きるのか、起きないのかが重要です。

Q5. 血液で、すべての食品のアレルギーを検査してもらうことは可能ですか？

A. 検査できる食品数には限界があり、かつ健康保険で認められる検査数の範囲がありますので不可能です。それよりも、これまで食べてどういう症状がでたのか、でなかったのかが重要です。

Q6. 同じものを食べても、アレルギー症状がでる時とでないときがあるのはなぜですか？

A. 軽いアレルギーがある場合は、通常食べられていても、その日の体調や環境要因などで、アレルギー症状が出る場合があります。このような場合、アナフィラキシーに至ることは多くはありません。

Q7 毎年、アレルギー検査(採血)は必要ですか？

A. 採血するか否かは本手引きのフローチャートにしたがって医師が判断するもので、学校から指示するものではありません。

Q8. アレルギーの原因となる食品を誤食した場合、どうしたら良いですか？

A. 重症度によりますので、あらかじめ主治医の先生に相談してください。

Q9. 給食は提供しておらず、弁当なのですが、それでもアレルギー対策が必要ですか？

A. 体育の時間、調理実習、課外活動など、給食以外の場所でもアレルギーやアナフィラキシーが生じる可能性がありますので、給食を提供していない学校でも対策を講じておいてください。

### 【アナフィラキシー】

Q1. 数年前にアナフィラキシーの経験があり、以後、食べていません。どうしたらよいですか？

A. 今でも食べられないとは限りませんので、主治医の先生に相談してください。

Q2. アナフィラキシーかどうか分からないとき、主治医の先生に連絡して指示を仰いだ方が確実と思いますが、そのようなことはできますか？

A. 主治医がいるということは、その子がアナフィラキシーを起こす可能性があるということになります。アナフィラキシー対応は分単位ですべきですので、症状が生じてから主治医と連絡を取るのではなく、あらかじめ対応法を決めておいて、それに従って行動して下さい。もしも、アレルギーの既往がない子どもがアナフィラキシーのような症状を呈した場合、当然、その子にはエピペン®は処方されていないので、救急車を要請して下さい。

Q3. 牛乳アレルギーがあるので、紙パックをつぶして皮膚に付着することでアナフィラキシーにならないか心配です。

A. 痒みなどは生じるかもしれませんが、粘膜でない限り、皮膚への付着だけでアナフィラキシーを起こす可能性は低いです。

Q4. 製造ラインでの微量の混入でアナフィラキシーになることはありますか？

A. 多くの場合、製造ラインの微量の混入で、アナフィラキシーになる可能性は低いです。調理具も洗剤で洗ってよく濯げばよいことが通常です。

Q5. 食物依存性運動誘発性アナフィラキシーがあります。体育はやめさせたほうが良いですか？

A. 原因が明らかであれば、原因となる食物を食べた後の運動を避けるという対応が良いです。

Q6. 校庭などでアナフィラキシーになった場合、保健室に連れて行ったほうがよいですか？

A. アナフィラキシーに陥った場合、動かすと心停止の危険を高めますので、その場で横にさせて、下肢を拳上した体位を取らせてください。

Q7. アナフィラキシーになった子どもを動かしてはいけないと聞きますので、担架で運んでよいですか？

A. アナフィラキシーに陥った場合、動かすと心停止の危険を高めます。担架でも同様に危険ですので、しないでください。

### 【エピペン®】

Q1. エピペン®は、一般教員でも使用してよいのですか？

A. そばにいた人が使用してください。

Q2. エピペン®を使用するタイミングがわかりません。

A. この手引きに従ってください。もしも分からないとか迷った場合は使用してください。

Q3. 学校でエピペン®を保管することは難しいので、保護者に保管してもらい、必要な時に呼び出して使用してもらってもよいですか？

A. アナフィラキシーとは、数分で死に至る可能性があるものですので、そばにいる人が使用できるよう、日ごろから練習しててください。

Q4. エピペン®を保健室で保管し、アナフィラキシーになった子どもを保健室に運んで使用してよいですか？

A. アナフィラキシーになった時、動かすと心臓が止まる危険を高めますので、動かさず横にして、下肢を少し高く保ち、エピペン®を取りに行ってください。

#### 【医療機関・専門医】

Q1. 救急車を要請した場合、どの医療機関に搬送すればよいですか？アレルギー専門病院は遠方になるのですが。

A. 主治医と、あらかじめ搬送先を決めておいて下さい。しかし、その時の状況で、決められた医療機関まで運ぶ前に処置が必要と救急隊が判断した場合は、救急隊の判断で搬送先を変更して構いません。また、アナフィラキシー対応は、アレルギー専門病院でないとできないことはありません。複数の医師(子どもの年齢によっては小児科医が望ましいこともあります)がいる病院であれば可能です。

Q2. 専門医を受診させたいのですが、紹介状などが必要でしょうか？

A. スムーズな診療が受けられるために、日ごろ診てもらっている学校医、主治医の先生と専門医との連携は不可欠です。保護者や学校の判断で、高次医療機関を受診すると、連携が取れなくなります。まずは、学校医、主治医の先生にご相談ください。

#### 【学校生活管理指導表】

Q1. アレルギーがあるだけでなく、どの程度までの除去食が必要(加工品や製造ラインでの混入など)か、どのような症状がでるのかを、意見書に記載していただくことは可能ですか？

A. 血液検査をしても、どの程度まで除去すれば大丈夫か、どんな症状がでるのかはわかりません。それよりも、これまで食べたときにどんな症状がでたのかを聞くことが重要です。

Q2. 学校生活管理指導表は、毎年書き直してもらったほうがよいですか？

A. その内容を、毎年、学校医、主治医の先生のいずれかに確認してもらうことが求められます。変更がある場合は書き直していただき、変更がない場合も医師が確認したことがわかるサイン、日付を記載してもらってください。

Q3. この手引きで指定されている学校管理生活指導表ではなく、学校独自で作成した、より詳細な医師意見書を記載してもらうことは可能ですか？

A. 医師の判断によりますが、書式は県内で統一されていたほうが、医師も書きやすいと思いますので、原則、この手引きの書式を使ってください。ただし、指定のものより詳細な診断書を記載したほうがよいと医師が判断した場合は、それに従ってください。

#### 【給食】

Q1. アレルギーの原因となる卵は、すべての給食から外したほうがよいと思いますがいかがですか？

A. 幼稚園、学校は子どもが成長していく場です。給食は食育として重要です。過剰な除去対応ではなく、どの子どものどの食品が「アナフィラキシーになる可能性がある」のかを把握することに努めてください。

Q2. 製造ラインでの混入まで確認することができません。どうしたらよいですか？

A. 明らかな混入があるのかないのかは、確認できる範囲内でしてください。調理具での混入がない

よう、洗剤を使った洗いをしてください。それで除去できない程度の微量の混入で、アナフィラキシーになることはほとんどありません。

**Q3. 乳化剤は、牛乳アレルギーで除去が必要ですか？**

A. 乳という文字が原材料や添加物に使われていても、乳成分が含まれないものがあります。乳化剤は大豆あるいは卵黄を材料として作られます。乳酸カルシウム、乳酸ナトリウムなども乳成分は含まれません。

一方、「乳酸菌」自体は、乳成分は含みませんが、「乳酸菌飲料」は、乳タンパク質を素材として発酵させる製品が多いため注意が必要です。

**Q4. パン屋さんで売っている米粉パンは、小麦アレルギーでも食べられますか？**

A. 一般のパン屋さんで売っている米粉パンのほとんどは、小麦粉が使用されています。またバックヤードで焼きたてを提供する製品には、調理場に小麦粉が飛散し混入が起きているので、微量で症状が誘発される場合には避けたほうが望ましいでしょう。アレルギー対応の米粉パンは、通信販売等で入手できます。